

2020年3月期 第3四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2020年2月4日

株式会社 **クレスコ**

The background of the slide is a repeating pattern of blue and white waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid-like fashion, with each wave consisting of several concentric semi-circles. The top and bottom portions of the slide are filled with this pattern, while the middle portion is a solid white rectangle containing the text.

① 決算のポイント

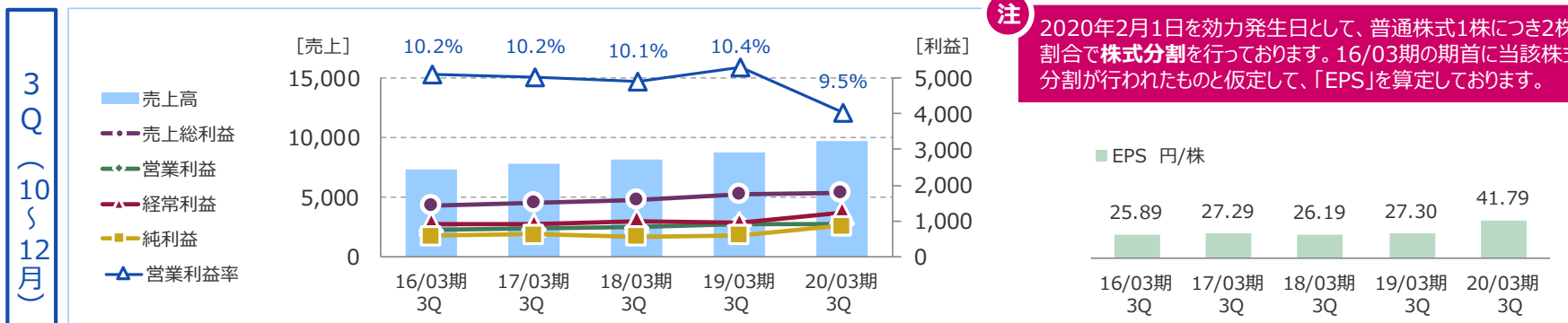
1.1. 売上高・利益 連結

[単位：百万円未満切捨]

- 経営環境 … 米中経済摩擦問題や世界景気の減速感に加え、中東情勢の不安等、多くの懸念を抱えながらも、「攻めのIT経営」を主眼としたデジタル変革がIT投資を下支え。
- 第3四半期は、**売上高と利益ともに2桁成長**で、**増収増益**に。開発人員不足の影響は、依然、拭い切れないものの、受注量の適正化や開発体制の強化でカバー。
- 10月1日から子会社「クレスコベトナム」が、クレスコグループにおけるオフショア開発の中核として稼働へ。

- 売上高 … 市場変化に則した顧客ポートフォリオを見直し、31億29百万円の増収 (前年同期比 12.1%増)。
- 営業利益 … 3億37百万円の増益(前年同期比 14.6%増)。 利益率は“9.0% → 9.2%”と、0.2%改善。
- 経常利益 … 4億87百万円の増益(前年同期比 18.4%増)。

3Q累計	18/03期		19/03期		20/03期		前年同期比	対通期進捗率	通期業績予想	20/03期	
	18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	対通期進捗率	20/03期	前年同期比	19/5/9 予想		前年同期比	
売上高	24,459	25,828	28,957	112.1%	76.4%	37,880	107.5%				
売上総利益	4,605 (18.8%)	4,809 (18.6%)	5,379 (18.6%)	111.9%							
営業利益	2,297 (9.4%)	2,316 (9.0%)	2,653 (9.2%)	114.6%	78.1%	3,400 (9.0%)	106.0%				
経常利益	2,683 (11.0%)	2,654 (10.3%)	3,141 (10.8%)	118.4%	82.4%	3,813 (10.1%)	104.2%				
純利益	1,720 (7.0%)	1,673 (6.5%)	2,003 (6.9%)	119.7%	82.9%	2,416 (6.4%)	105.7%				
注	EPS 円/株	77.90	76.49	94.09							注
						114.28					



[注] () 内の数字は各々の利益率を表します。

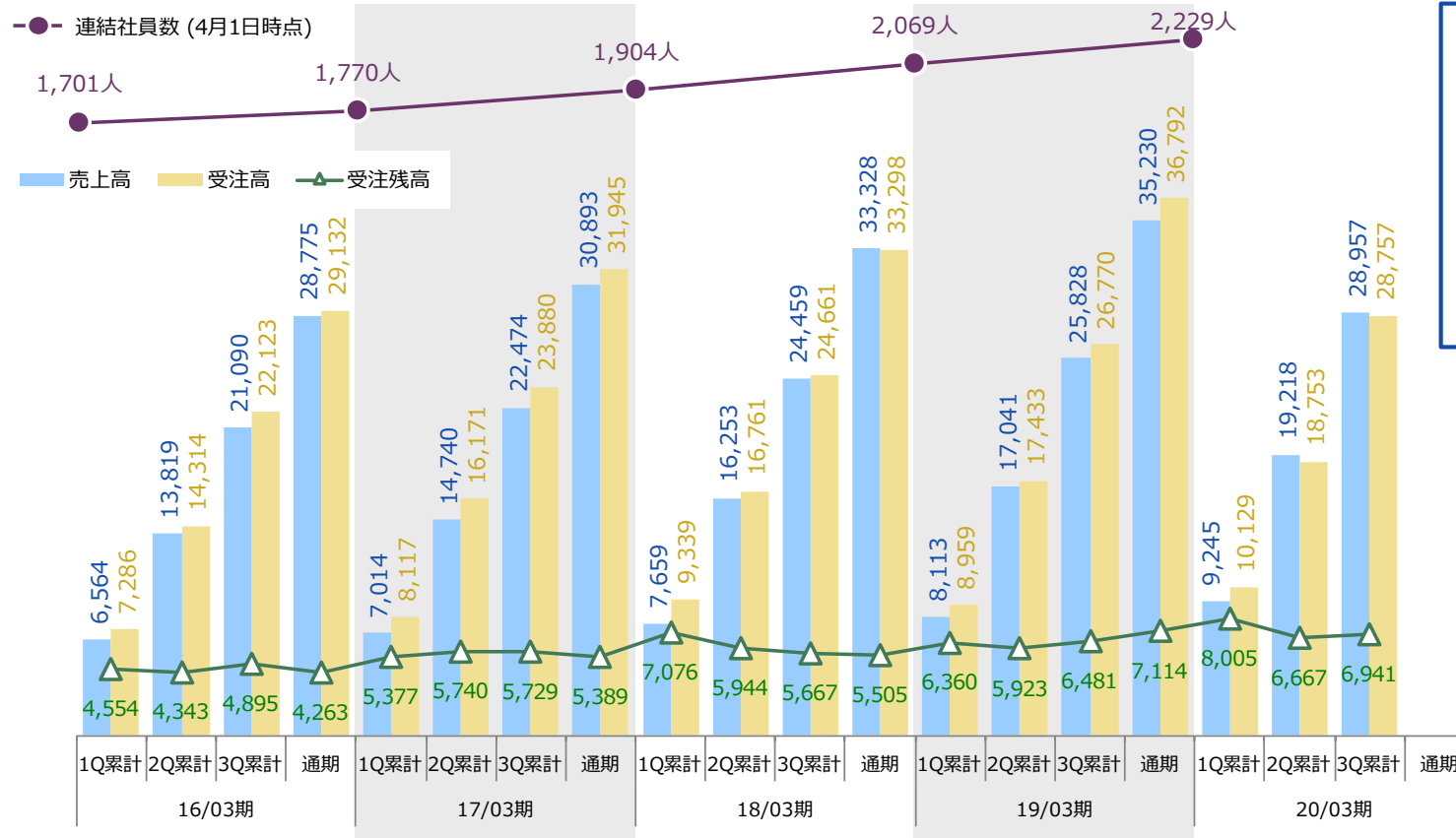
[注] 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 顧客の引合いは、上期に引続き、攻めのIT投資やデジタル変革(DX)を背景に活況が続く。

- ソフトウェア開発 … 金融関連は減少するも、子会社を含め、既存顧客(「公共サービス」「流通・その他」)の受注は順調。
- 組込み型ソフトウェア開発 … カーエレクトロニクス関連の顧客ミックスに変化はあるものの、全体の受注は順調。

■ サービス事業の拡販と、DX案件(特に、クラウド関連とAI関連)の受注が順調。



<受注高>
前年3Q累計比
107.4%

<受注残高>
前年同期比
107.1%

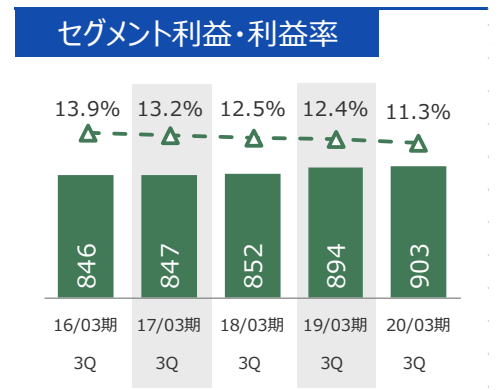
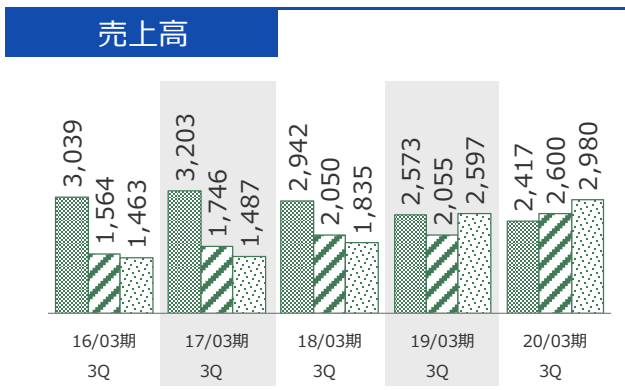
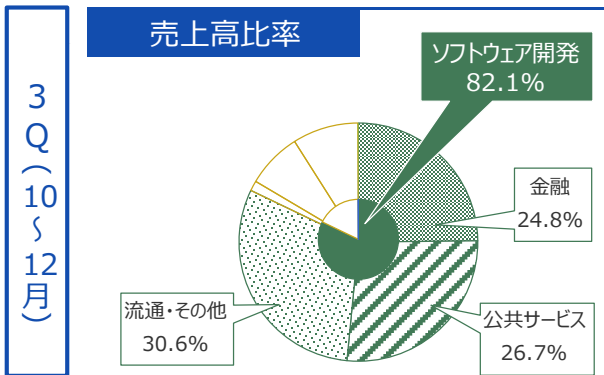
[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェア開発

- ・ 営業および開発体制(オフショアを含む)の強化、グループ連携の徹底により、売上高は**12.2%の増収**。
- ・ プロジェクトマネジメントと品質管理の強化に注力した結果、セグメント利益は**14.0%の増益**。
- ・ 「金融」の減少分は、「公共サービス」「流通・その他」でカバー。「クレスコベトナム」を含む子会社の受注増加も寄与。

- 金融 … 銀行関連の顧客毎の変化が大きく、減少。(前年同期比 1億44百万円の減収)
- 公共サービス … 既存大口顧客(人材、旅行、運輸)のIT投資が、引続き増加。(前年同期比 9億46百万円の増収)
- 流通・その他 … 子会社(アイオス、クレスコ北陸、クリエイティブジャパン、メクセス、アルス)における受注が拡大。(前年同期比 17億89百万円の増収)

		18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	
3 Q 累計	ソフトウェア	金融	9,025	7,797	7,653	98.1%
		公共サービス	5,572	6,266	7,213	115.1%
		流通・その他	5,817	7,099	8,888	125.2%
	売上高		20,415	21,163	23,755	112.2%
	セグメント利益(率)		2,500 (12.3%)	2,313 (10.9%)	2,637 (11.1%)	114.0%



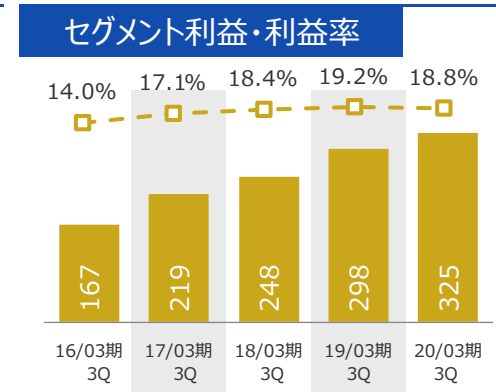
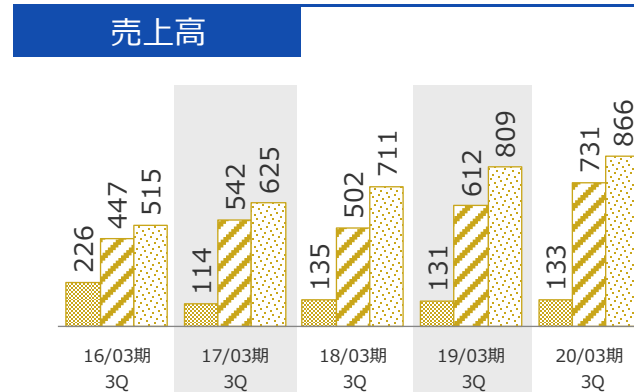
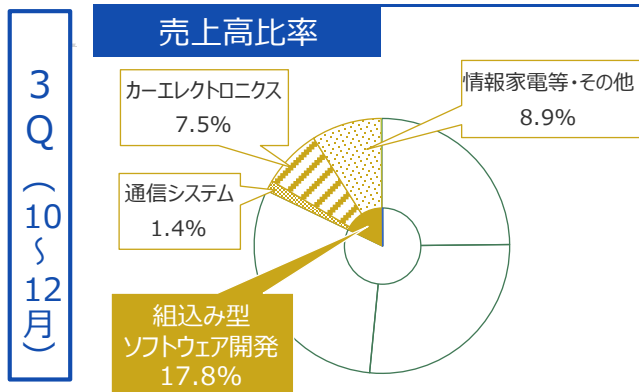
[単位：百万円未満切捨]

■ 組込み型ソフトウェア開発

- 主要顧客からの継続的な増員要請や、基本契約の見直し(包括契約の締結)の他、生産性改善の取組み、ニアショアを含む開発体制の強化が奏功し、売上高は**11.7%の増収**、セグメント利益は**13.5%の増益**。

- 通信システム … スマートフォン関連は微増。(前年同期比 6百万円の増収)
- カーエレクトロニクス … 主力のインフォテインメント系が拡大し、センサー系の開発も順調。(前年同期比 3億81百万円の増収)
- 情報家電等・その他 … デジタル情報家電が順調。(前年同期比 1億56百万円の増収)

		18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	
3Q累計	組込み型 売上高	通信システム	376	383	389	101.6%
		カーエレクトロニクス	1,501	1,801	2,183	121.2%
		情報家電等・その他	2,090	2,446	2,602	106.4%
		3,968	4,631	5,175	111.7%	
	セグメント利益(率)	649 (16.4%)	855 (18.5%)	971 (18.8%)	113.5%	



The background of the slide is a repeating pattern of blue and white waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid-like fashion, with each wave consisting of several concentric semi-circles. The top and bottom portions of the slide are filled with this pattern, while the middle portion is a solid white rectangle containing the text.

② 今期の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- 足元の業況から、上振れの可能性はあるものの、現時点では、2019年5月9日に発表した**期末業績予想に変更なし**。
- 技術および品質面での更なる強化を図るとともに、AIとクラウド技術者の拡充教育、他社とのアライアンス推進、オープンイノベーション・産学連携による新ビジネスの創出に注力し、質的、量的成長を目指す。

	19/03期					20/03期	
	18/5/8 予想	前年同期比	実績	前年同期比	達成率	19/5/9 予想	前年同期比
通期 売上高	35,500	106.5%	35,230	105.7%	99.2%	37,880	107.5%
売上総利益			6,673 (18.9%)	105.8%			
営業利益	3,280 (9.2%)	106.1%	3,207 (9.1%)	103.7%	97.8%	3,400 (9.0%)	106.0%
経常利益	3,580 (10.1%)	102.5%	3,658 (10.4%)	104.8%	102.2%	3,813 (10.1%)	104.2%
純利益	2,416 (6.8%)	109.7%	2,285 (6.5%)	103.8%	94.6%	2,416 (6.4%)	105.7%
注 EPS 円/株	110.42		104.46			114.28	注

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で**株式分割**を行っております。19/03期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、「EPS」を算定しております。

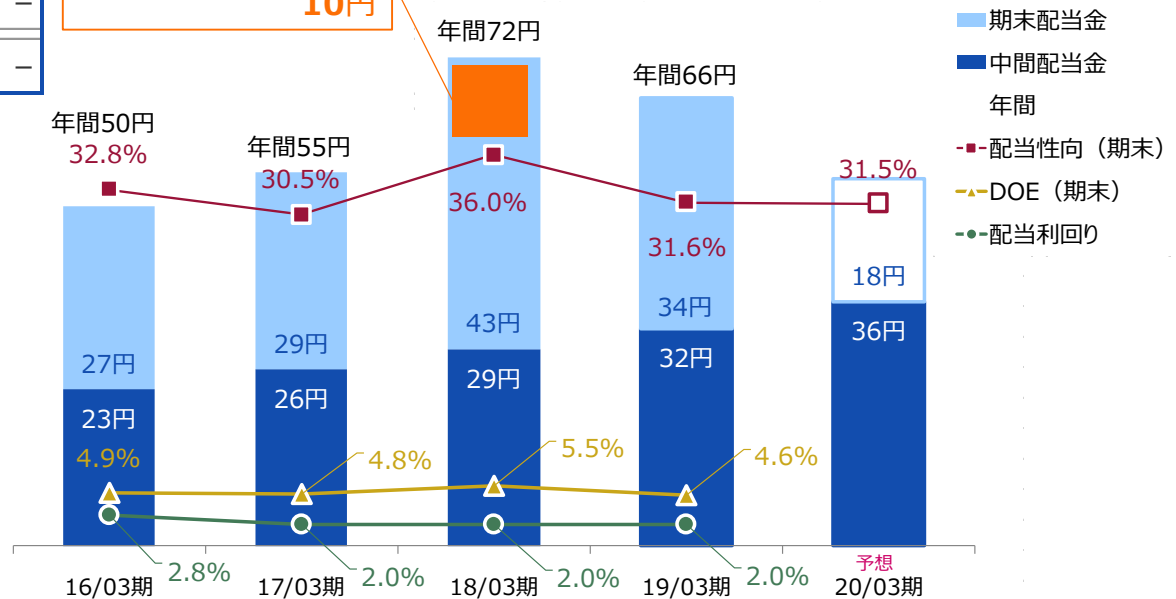
- 2019年11月6日： **中間配当および期末配当予想の増配**(各34円 ⇒ 36円、各2円増)を発表。年間配当金は72円(4円増)に。
- 2020年2月1日付： 1対2の株式分割を実施。配当予想は据え置き。(期末配当は分割により、36円 ⇒ 18円に修正)

	18/03期	19/03期	20/03期		
	実績	実績	実績	19/11/6 予想	増減
中間	29円	32円	36円	36円	4円
期末	43円	※ 34円	-	18円	-
年間	72円	66円	-	-	-
配当性向	36.0%	31.6%	-	31.5%	-0.1%
配当利回り	2.0%	2.0%	-	-	-
DOE	5.5%	4.6%	-	-	-
配当金の総額	781百万円	722百万円	-	-	-

株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、原則、**連結経常利益**をもとに、特別損益を零とした場合に算出される**親会社に帰属する当期純利益**の30%相当を目標に継続的に実現することを目指してまいります。

創立30周年記念配当
10円



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- **16/03期中間～20/3期中間**は分割前の**実際**の配当金の額を記載しております。
- 20/03期予想の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載しておりません。

[配当金の総額：百万円未満切捨]
※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む

The image features a repeating pattern of blue and white stylized waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a dense, overlapping grid. In the center of the white space, the Japanese text '【ご参考】' is written in a blue, sans-serif font.

【ご参考】

東京オリンピックに関連するインフラ整備やインバウンド需要の拡大、底堅い内需が後押しし、
経営環境は堅調に推移

- 2019年12月の日銀短観では、業況判断指数(DI)が大企業製造業、非製造業ともに悪化するなど、内外の先行き不透明感が継続。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2019」47.6%の企業が2019年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、IoT(Internet of Things)、AI(人工知能)/機械学習、運用自動化(RPA)といった先端技術のトレンドと相まって、投資意欲は一層拡大。
- 当社の足許の営業状況からも、お客様の投資意欲を窺うことができ、需要の更なる押上げを実感。

- 当社の主要セグメントにおいて特に成長が見込まれる、人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム(AI、RPA)、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- 当社グループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有し、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。



- 前期の教訓(不採算プロジェクト5件発生による約1億円の損失)を活かし、品質管理強化と生産性向上を軸に足固めをしつつ、成長に弾みをつける時期。
- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業では、技術および品質の面から更に強化。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開。

経営方針

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- サービス品質の強化による質的成長
- リソースおよび技術戦略の強化による量的成長
- M&Aによる成長スピードの拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation
 ~『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。~

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

対処すべき課題

5ヶ年ビジョンによる継続課題

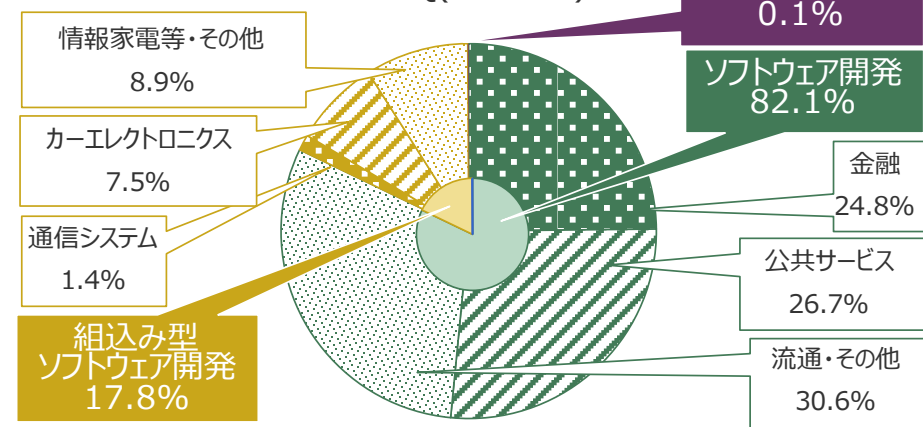
1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様との
リレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取り組み

	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコイー・ソリューション 【※3】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
アイオス 【※6】【※10】【※12】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ九州 【※13】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ上海 【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シーサー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
エス・アイ・サービス 【※1】【※3】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス 【※2】【※8】【※9】	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
エヌシステム 【※4】	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ネクサス 【※7】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	
アルス 【※11】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	
クレスコベトナム 【※14】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	
子会社総数	9	9	10	10	9	10	10	10	10	10	9	10	10	10	11	11	10	11	11	

- 【※1】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化
- 【※2】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化
- 【※3】 2016年4月1日付で「クレスコイー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合
- 【※4】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化
- 【※5】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了
- 【※6】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)
- 【※7】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化
- 【※8】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

- 【※9】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合
- 【※10】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合
- 【※11】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化
- 【※12】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化 (当社の孫会社)
- 【※13】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合
- 【※14】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立 (営業開始は2019年10月1日から)

<セグメント別の売上高比率:3Q(9~12月)>



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058